

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン、文字入力が苦手な児童がいる。 ・オクリンクを使って、写真を撮ることはできるようになってきた。ただ、自分の考えを書くことについての個人の能力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のICTの時間や授業で文字入力の練習をするなど、タブレットを使う機会を増やしていき、一人一人のペースに応じて、タイピングに取り組んでいく。 ・時間を決めて、オクリンクの提出BOXを公開し、友達の考えを見ることができるようにする。友達の考えを参考にして、自分の考えを書けるように指導していく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童はタブレットを使いたいという意欲はあるが、タイピングができないため、苦手意識をもったり時間内に満足に活動ができなかったりする。 ・調べ学習をすると、サイトの文章をそのまま書き写して満足してしまうことが多々ある。 ・ドリルパークに慣れ親しんで、よく使っている一方で、学習が苦手な児童はドリルパークよりもプリント学習を選ぶ傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のICTタイムにタイピング練習を行う。タイピング大会を開くなどして、自分の成長を実感できる機会を増やす。 ・サイトを書き写しても、本人が理解できていないと意味がないことを根気強く指導する。ポスターを作る際に、自分の言葉でまとめるように指導する。 ・学習が苦手な児童には、1年生の内容からドリルパークに取り組みせ、既習事項の確認からさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、タイピング練習アプリに慣れ親しんでいる。一方で、文書作成ツール（Googleドキュメント）に自分で考えをまとめながら文章を打っていくことは、個人の能力差が大きい。 ・文字入力では、手書き入力や音声入力を選択する児童もいる。 ・自他の情報を区別する方法、情報を引用した際の記述の仕方について、1学期に学習したところである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、朝のICTの時間を中心に正しい指の位置を意識させながら、タイピング練習に取り組ませていく。また、単語だけでなく、教科書の文章などを打つ機会も設定する。 ・国語でローマ字を学習するので、タブレットの入力でも、ローマ字で入力できるように練習の機会を設ける。 ・引用部分と自分の考えとを区別したり、引用の分量が多くなりすぎたりしないよう、引き続き指導していく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピング練習の時間では、各自の力量に合わせて、練習をしている。しかし、オクリンクや検索等、文字入力をする場面では手書き入力を選択する児童が20%程度いる。 ・デジタル教科書を活用した授業を行い、学習理解に役立てることができた。しかし、個々の課題解決の進捗に応じた提示の仕方が課題である。 ・体育で、自分の動きを見返すなど、ICT機器を活用することができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入力する際には、タイピング入力をするよう個に応じて指導を続ける。また、ローマ字の学習をした後に定期的に読み書きの練習を取り入れ、慣れ親しむようにする。 ・算数では、作図の仕方や筆算の手順を示した。児童によっては、それらを手で何度も見返すことができるようにすることで、個別の課題解決に役立つ。いつでも見返すことができるよう、クラスルーム等にリンクを貼り、いつでも見返すことができる環境を整える必要がある。 ・今後、マット運動や跳び箱運動で、動きを撮影し、自己の課題解決に役立つような場を設定する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明文の構成を分析的に捉え、筆者と自分の考えや生活などと比較しながら読みを深める必要がある。 ・漢字の読み書きに課題がある。書き順や字形を正しく覚え、熟語や文章など普通の生活の中で使えるようにする必要がある。 ・問題文から数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉える力を伸ばす必要がある。 ・個別最適な学びを図る上で、児童自らが選択し、学習できる環境を用意する。 ・タイピングの技能においてかなり個人差があるため、意図的にタイピングの時間をとる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「起承転結」「初め中終わり」の視点に立って読むことができるよう繰り返し指導することで、読みだけでなく児童自身が書くときや文書作成（ワードやドキュメント等）のときも同じ構成で書くことができるようにする。 ・漢字1字を単に覚えるのではなく、意味とその字を使った熟語や文を練習させる。また、隙間時間でドリルパークを活用した漢字チェックを適宜行い、定着を図る。 ・数直線や線分図などの描き方を定着させ、立式の根拠をもたせた上で課題解決に取り組ませる。その際、ワークシートとしてプリントまたはオクリンク等に数直線を準備しておき、児童が選択して取り組めるようにする。 ・朝のICTの時間において、タイピングの基本フォームやタイピングゲームを活用して、技能を身に付けるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読み取って立式する際、立式した根拠を説明することに苦手意識をもっている児童が多い。 ・タイピング技能、googleスライド、ドキュメントなど活用能力に個人差が見られる。 ・どの学習においても、個人差が大きくなってきた。 ・筆者の考えや登場人物の気持ちを丁寧に読み取ったりする力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数では数直線や線分図などの描き方を定着させ、その他の教科でも自分の考えの根拠を示すことを意識させる。その根拠をまなびポケットを活用して積極的に交流できるようにする。 ・授業内でタブレットを活用する頻度を増やしていく。 ・タブレットを活用して個別最適な学びを図る。 ・根拠となる部分を本文から見つけられるように繰り返し指導し、手本となる児童の意見をICT機器を用いて広めていく。